

はじめに

2016年8月、ブラジルのリオデジャネイロで第31回オリンピック競技大会が開催されました。どの競技も熱戦が続き、選手たちの姿から多くの感動をもらいました。日本代表の選手団が得たメダルは、金メダルが12、銀メダルが8、銅メダルが21、計41。4位から8位までの入賞が計47。合わせて入賞総数は、88。入賞者の総人数は、170人。とてもすばらしい結果でした。メダルを手にした選手、メダル獲得には惜しくも届かなかった選手、選手のコンディションをサポートした方々、オリンピックにかかわった全ての方々に称賛の拍手を送りたいと思います。

メダルを手にした選手たちのコメントでは、「オリンピックに出場して、メダルを取ることが夢だった」「メダルを取ることが目標だった」の言葉が数多く聞かれました。最初は、オリンピックに出場することや、メダルを取ることが夢であり、その夢はいつしか、その人の目標となっています。夢や目標の実現に向けて、何をするのか、どのように練習をしたらよいかなど、具体的な計画を立て、一心不乱に練習を積んでいます。メダルを手にした選手たちの心意気や向上心は、まさに夢が出发点であり、夢が源となっていると感じます。

さて、半田市では、キャリア教育を土台に、元気・笑顔・優しさいっぱいの子どもを育てる教育を進めており、目指す人間像と重点取組事項として「確かな学力を身に付け、夢や目標に向かって自らを高めようとする人」「キャリア教育の充実」を掲げ推進しています。また、本校は、平成28、29年度、半田市教育委員会から「アクティブ・ラーニング」の研究委嘱を受け、現職教育の研究主題を「主体的に考え、進んで学び合える児童の育成ー能動的な課題解決学習を通してー」とし、取り組んでいます。この取組が、夢や希望をもち進んでいく雁宿っ子の成長につながることを願っています。

本まとめでは、研究の取組、学級の授業実践、学年のあゆみを記しました。つたない実践ではありますが、ご高覧いただき、ご助言とご示唆をいただければ幸いです。

結びに、本校の教育活動にご理解・ご支援をいただいた関係各位の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

半田市立雁宿小学校長 大澤 義生